

USB-5 試聴記 (10)
—USB-5 の使いこなし—

USB-5 の導入以前に市販の USB メモリーを改造する過程で、その置き方やメモリーの基板の周辺の媒体の違いで音が変わってくることを経験しました。USB-5 の導入後は、インフラノイズ社で木製のケースに入れるなど、音質への配慮を行っているということで、少々粗雑に扱ってきました。ところが、USB-5 の扱いでも音が変わるとの情報もあって置き方について検討してみました。即ち、USB-5 の木製ケースの米松の底板を下記のようなものの上に接して置き、音質がどう変わるかテストしてみました。これらを被検素材の写真を添付します。なお、再生は Dynabook の XP 機で、再生は Lilith を使用し、ABS-7777 でクロック制御した USB-101 を経由して行います。

1) 繊維系

フェルト (インフラノイズ社マグナライザー接触面、フェルト面の厚さ 6mm)
ポリエステル不織布 (商品名: パーフェクトバリアー、厚さ 28mm)

2) 木質系

コルク板 (厚さ 6mm)
会津塗酒杯台 (接触面漆塗、厚さ 13mm)
自然木切り出し花瓶台 (厚さ 15mm)
桐製薄板 (厚さ 4mm)

3) ゴム・プラスチック系

制振プラスチック系複合材料 1 (J1 プロジェクトインシュレーター、厚さ 5mm)
制振プラスチック系複合材料 2 (foQ インシュレーター、厚さ 1.5mm)
無反発ゴム (ハネナイトインシュレーター、厚さ 2.5mm)

4) 金属系

金属製インシュレーター 1 (制振金属 M5052 製、厚さ 5mm)
金属製インシュレーター 2 (オーディオテクニカ製制振金属、厚さ 5mm)

5) ガラス・陶器・石系

硬質ガラス板 (厚さ 9mm)
備前焼皿 (厚さ 6mm)
硅化木 (厚さ 25mm)
御影石 (表札用、厚さ 30mm)

試聴は、まずそれぞれのグループ毎に行い、その中から良いと思われたものについてもう一度比較することにしました。音源は、BS 放送の録音を、SoundBlaster 経由で PC に取り込んだクラシック数曲を使用しています。



繊維系のグループでは、ポリエステル不織布は音の響きがありすぎて騒がしくなる傾向があります。フェルトでは音が若干整理されて騒がしさが取れてきます。

木質系のグループでは桐製薄板はポリエステル不織布に良く似た音がします。さらに、コルク板→自然木切り出し花瓶台→会津塗酒杯台の順に音が整理され、会津塗酒杯台では音の響きと音像の彫刻がバランスしています。

ゴム・プラスチック系のグループでは、無反発ゴムと制振プラスチック系複合材料2では音の響きがダンプされて少しぎすぎすした音になります。制振プラスチック系複合材料1はダンプの程度が小さく響きが残っています。

金属系のグループの金属製インシュレーター1と金属製インシュレーター2は音の隈取りがしっかりしていて余分な響きがありませんが、繊細さで若干優るのは金属製インシュレーター1です。

ガラス・陶器・石系のグループでは、硬質ガラス板は少しキンキンした音が乗る他、備前焼皿、珪化木、御影石は良く似ています。敢えていうと備前焼皿は響の良さ、残り二つは音像の立ち方で好感が持てます。

以上から、フェルト、会津塗酒杯台、制振プラスチック系複合材料1、金属製インシュレーター1、備前焼皿および御影石を残して、これらの間の比較をしました。

これまでは、小編成もので木管、弦、ハープなどの音の質感を主に聴いてきましたが、この後はツアラストラの出だしのオルガン、低弦、ティンパニやフルオーケストラの音の分離に注意して聴きました。

その結果、素材の硬さが硬いほど、音が分離して聴こえることがわかりました。結論として音の分離と響きがバランスしている備前焼皿を中心に、もう少し引き締めたいとき

は金属製インシュレーター1を、響きを加えたいときは制振プラスチック系複合材料1を使うことでUSB-5の音を調整していくことにしました。

なお、こういったことは、USB-5の音を大幅にかえるものではなく、あくまでUSB-5の持ち味を微妙に変化させる程度のものであり、アンプやスピーカーによっては検知できないレベルのことであることをお断りしておきます。

以上